

令和7年度 筑後市立筑後保育所 自己評価結果

保育所保育指針（以下「保育指針」という）において、保育士等及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務として位置付けられています。また、筑後市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例でも、特定教育・保育施設は、自らその提供する特定教育・保育の質の評価を行い、常にその改善を図らなければならないとされています。

このことを踏まえ、筑後保育所では保育の質の向上を図るために自己評価を実施しました。

自己評価を通して、自分たちの保育のよさや課題に気づき、次の保育計画へ活かしていくことで、より良い保育を提供し、保護者の皆様や地域の皆様との信頼関係がより良く、より深まるよう努めてまいります。

【評価のねらい】保育指針で示された方向性に沿った保育ができているかどうかを評価して、保育指針の改定内容の理解を深めるとともに、保育の改善に活かします。

【評価項目】①指針に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点で評価
②保育の実施及び保育所運営に関する項目

【評価の判定】 評価項目①についての基準

- ◎=10の姿の方向性につながる活動ができている。
- =10の姿の方向性に沿っているが、充実・改善等を要する点がある。
- △=10の姿の方向性を意識した活動ができていない。

評価項目②についての基準

- ◎=できている。
- =ある程度できているが、充実・改善等を要する点がある。
- △=ほとんどできていない。もしくは、できていない。

【評価方法】評価項目について、個々の保育士、職員が評価を行い、評価結果を持ち寄り、保育所としての自己評価を決定します。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について

<p>保育所保育指針第1章「総則」に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、保育所保育指針第2章「保育の内容」に示されたねらい及び内容に基づいて、各保育所で、乳幼児期にふさわしい生活や遊びを積み重ねることにより、保育所保育において育みたい資質・能力が育まれている子どもの具体的な姿であり、特に小学校就学の始期に達する直前の年度の後半に見られるようになる姿である。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、とりわけ子どもの自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての子どもに同じように見られるものではないことに留意すること。</p>	
健康な心と体	保育所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、保育所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

1. 保育指針に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点から、保育実践を振り返り評価します。

1	健康な心と体	評価 ◎
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着替え、整理整頓、手洗い、排せつなどの生活習慣が身につくように保育を行っている。また、強制させるのではなく子ども自身が自分の意志で行うように促している。 ・戸外遊びでは、自分の好きな遊びを見つけて自由に遊ぶことができおり、体を十分に動かすことが出来ていると思う。危険な遊び方をしている時もある為、個々に合わせた声掛けや援助が必要である。 ・自由遊びは自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせることに繋がっていると考える。 ・薄着の生活を心がけ、毎日戸外へ出て、思いっきり体を動かして健全な体作りを行っている。毎日同じことを繰り返し行うことで、身の回りの事を自ら意欲的に取り組んで行おうとする姿が見られる。 ・生活面で、自分から排泄や食事の準備、着替えなど見通しをもって取り組むことが出来ている。戸外では、薄着や裸足で過ごすよう心掛け、園庭遊具や泥や水に触れながら積極的に遊び、遊びの中で自信や充実感を感じている。 ・戸外遊びでは子どもたちと一緒に遊んだり、裸足になって過ごしたりする。散歩でも遠くまで歩けるようになり行き先を広げることができるようになった。寒いときにも戸外へでて遊ぶことで強い体作りができた。 ・天気が良い時や過ごしやすい季節の時は、より多く外に出て、自然の気候を感じるようにした。なるべく裸足にし、水や泥の感触もたくさん味わえるようにした。 ・戸外遊びでは、暖かい日には裸足で過ごし、泥遊びで全身泥まみれになり土に触れる姿や、鬼ごっこでは園庭を走り回り、十分に体を動かし健康な心と体作りが出来ている。 <p>天気が悪い日には、室内ではリズム遊びを行い、元気に身体を動かすことも出来た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内では、歌やリズムの時間を確保して日常的に行うことを意識づけて、子どもたち自身が「今日もリズムをしたい」「この歌を歌いたい」という姿が、見られている。集団遊びなどではみんなで体を動かして気持ちよく発散してメリハリを意識している。荷物の準備や片付けは時間を見て終わらせること、次の活動を意識して行動する声掛けを行っている。 ・日頃より、季節を問わず、薄着に心がけ、戸外あそびやリズムあそび、また、天気の良い日は園外へ散歩に出たりする保育をモットーにて、今年は、天気にも恵まれ、長い距離を歩いたり、公園で遊んだり、身体を動かす時間を増やし、体力作りを心がけた。 ・興味のあることに意欲的に取り組む子もいれば、消極的で周りの様子を伺い、じっとしていることが多い子もいた。少しずつ環境に慣れ、初めてのことにも挑戦できるように楽しい雰囲気の中で、誘っていくうちに、いろいろなことに参加できるようになってきた。 ・戸外遊びや、散歩を通して体を動かす機会を設け、体を動かす心地よさを味わえるように心がけている。また、散歩時には安全に気を付けて歩けるよう、繰り返し約束事やルールを伝えている。今後は、リズム遊びをする機会も増やしていきたい。 <p>《3歳以上児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散歩に出かけて自然に触れたり、リズムやロールマットで体をほぐしたりして、健康な心と体を育むことにつながったと考える。保育中に病院に行くような怪我もあったため、見守りの強化や怪我を予防できるような環境づくりを心がけていく。 <p>《3歳未満児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸外で滑り台の山を登ったり、外でたくさんハイハイをしたことで、足腰の成長へとつながった。また薄着の生活を心がけ、思い切り体を動かし丈夫な体作りをおこなった。 		

2	自立心	評価 ◎
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作活動では、身近な素材を使い試行錯誤して何かに見立てたり、工夫したりしながら最後まであきらめずに取り組む活動を行った。 ・衣服の着脱や食事、排泄等、自分の身の回りのことを自分で出来るようになることを目指して保育をしている。その中で、難しいこともまずは自分でやってみよう促しているが、今、何をすべきか理解しているものの、友達につられてふざけてしまう子も多い為、声掛けや環境作りを工夫する必要がある。 ・自分の荷物を自分で整理したり、着替えをしたりする中で、自分で考えたり、工夫したりしながら行うことに繋がると考える。ビニール袋の口を結ぶのが難しい子、上着のファスナーをとめるのが難しい子といたが、自分の力で取り組み、諦めずにやり遂げることができるよう支援を行った。何度も取り組み、自分で出来た時には嬉しそうな表情で教えてくれるようになった。やり遂げる達成感を味わえたからその表情で、次の時にも自信を持って行動できることに繋がると考える。 ・一人ひとりの意欲を大切に、保育士自身も見守るように心がけて、できない所は一緒にいき、やり方を伝えて、子ども自身が達成感を味わえるように関わっていった。 ・落ち着いた生活空間の中で、荷物の整理や衣服の着脱など身の回りのことは自立心を持って積極的に取り組んでいる。また、着替えの衣服を選ぶ、遊びを選ぶなど自分で選択できる環境を整え、子どもが主体的に取り組めるようにしている。 ・衣服や靴の着脱などを自分でできるよう見守り、必要に応じて援助を行った。できた際はたくさん褒め達成感を味わってもらえたことができたと思う。 ・自分のことは自分でできるようになってきたが、個人差があり脱ぎっぱなしになっていたり着替えずうろうろしたりする子がいる。素早くできる子たちもいるためその子たちをほめてみんなに促していく。 ・なんでも指示するだけではなく次は何をするのかを考えられるような環境作りを行う。子どもたちが次に何をするのかを考え自分たちで動けるようになってきた。毎回着替えをするのではなく汚れたときのみ着替えをするなど考えて行動できるようになってきた。 ・自分のことはできるだけ自分でしようとする意欲もでてきている。できない時に保育者や友だちに困っていることを伝えられる力も育ってきた。 ・遊びや生活の中で、子供が自分でやってみようする気持ちを大切に、着替えや食事などを見守りながら必要に応じて援助している。すぐに手を貸すのではなく、「できたね」「やってみようか」と気持ちに寄り添った声かけを心がけることで、自分で取り組もうとする意欲や達成感に繋がるような関わりを行うようにした。 <p>《3歳以上児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分のことは自分で」ということを意識できるような声かけを心がけ、意欲的に取り組めるように仲間力を借りて努力したり、応援したりと、年長児ならではの団結力を大切に過ごせるようにした。 ・製作など季節の作り物を行う際には、季節に関連した歌や絵本などを用いることで想像しやすい環境を作り、順序立てて進めることや、自分なりに目の前にある材料で何が作れるかを考える力を付けられるように意識している。集中力が続かない人には終わりが見えるようにここまでというわかりやすい目安を作り、諦めずに続ける忍耐力をつけられるようにして自信につなげている。 ・年長児になり、一日の流れも分かり、身辺整理や衣服の調節なども、指示を待つだけでなく、自分で考えて行動できるようになることが多くなった。援助が必要な子どもに対しても、活動の節目節目ごとに、褒め、今後の意欲につなげるよう、丁寧に関わるよう心がけた。 <p>《3歳未満児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「赤ちゃんだから」というのを取り除き、自分で出来ること、しようとする事はさせるようにした。初めは上手くいかなかった子も回数を重ねるごとに出来るようになり、嬉しい表情をたくさん見れた。 		

<p>・排泄の自立を目指し、トイレに行くことを習慣化してきた。排泄前後にパンツやズボンの着脱の練習もしており、日々の積み重ねで上手にできるようになっている。</p>		評価
3	協同性	○
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団遊びを取り入れ、他者の思いに気づいたり、自分の思いを言葉で相手に伝える力を育むことができた。 ・友達と一緒に何かを作ったり目標を設定している活動は少ない。 ・友達と関わって遊ぶことが多くなり、一緒にブロックで大きなものを作り上げたり、戸外ではごっこ遊びなどをして協力して遊ぶことが少しずつ増えてきた。 ・自由遊びの時間を多く取り入れ友だちと一緒に遊ぶことで、ごっこ遊びや見立て遊びを楽しむことができている。また、集団リズムや集団遊びをする中で、簡単なルールを守ることで友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようにした。 ・集団遊びをしたりする中でルールを学ぶことができ協調性を身に着けることができた。おもちゃの貸し借りで譲り合う姿が見られるようになった。 ・友だちが困っている時にはやさしく声を掛けたり、手伝ってやったりする気持ちも芽生えている。 ・遊びの中で友達と関わろうとする姿が増え、譲ろうとする気持ちの芽生えも少しずつ育ってきている。 <p>一方で、「自分が」という思いも強く玩具の取り合いやトラブルになる場面も多いため、仲立ちや丁寧な声かけが十分であったか、課題があると感じている。友達と関わる楽しさや、一緒に過ごす心地よさを感じられる援助をより意識した保育を行っていききたい。</p> <p>《3歳以上児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会では荒馬や年長リズムなど多く目標に向かって友だちと一緒に練習することができたため「協調性」を育むことにつながったと考える。保育士が先に意見や答えをいうのではなく、子どもたち同士で考えられる雰囲気作りを心がけた。 ・グループ活動では、急ぐべき時にはどうしたらいいか。自分だけではなく、グループの友達に声をかけたり、手伝いが必要な時には、手を貸したりと共通の目的に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりすることに繋がっていると考える。子どもたち同士で考えて行動しているときには、こちらからは余計な声かけをしないようにしている。 ・自分たちで遊びたいという思いがある時は、ケンカが起きようとする程度見守るようにした。自分たちでどう解決出来るのか、泣いてしまった時は気持ちを共感出来る声かけをした。 ・集団遊びを行う際には、子どもたち同士で話し合いやルールの確認を行い必要に応じて保育士が介入し、子どもたち自身で意見を出し合い、食い違ふときにはどのように解決に導けばよいかを考える機会を作っている。仲間に入れていない子がいるときには声をかけたり、ルールがわからず困っている子がいるときには声をかけたり、横について教えたりと相手を思いやりみんなでやり遂げられるような関係づくりができている。 ・年長児になり、自己主張も増えていくようになる中で、集団あそびや行事を通して、自分の思いを通すことだけではなく、相手の気持ちを聞きながら、お互いの気持ちを気付ける環境を作れるように配慮し、月齢の差も課題としていたが、今年度は、廃材や散歩中に集めた自然なものを使った、自由製作あそびを取り入れたこともあってか、友だち同士で、関わる機会も増え、楽しく取り組むことができたと思う。 ・松ぼっくりやどんぐりなど、自然物を使って遊ぶ中で、友達と同じ遊びを共有し、一緒に遊ぶなかで、お互いに譲り合ったり、遊びを工夫したりする姿がみられた。 <p>《3歳未満児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0歳時なので協力したりすることは難しかった。 ・友だちの意見を聞くこともできるが、まだ自己中心的な子が多くおもちゃの貸し借りが難しかったり泣いて保育士に訴える子が多い。自分たちで話し合うことが難しいため揉め事の時は間に入ってお互いの意見を伝えるようにしている。 		

4	道徳性・規範意識の芽生え	評価 ○
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散歩では交通ルールや公共のものを使うときのきまりなど社会のルールを伝えることができた。友達とのトラブルが起きた時には双方の話を聞き、子ども自身が自分の思いを言語化するための手助けを行った。 ・いいこと悪いことの判断ができるようになり、友だち同士で教え合う姿も見られるようになったため、生活のルールを意識して行動することができた。 ・友達同士で遊ぶ中で、決まりを守る必要性が分かる。ケンカをしたり、トラブルが起こったりすることで、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したり出来るようになると思う。子どもたちの様子を見てみると、友達のケンカに気付き、他の子が間に入ってその場を丸く納めてくれることも多々ある。危険な場合や、大人が間に入ったほうが良い時は間に入るが、様子を見守っても大丈夫そうな時は、見守るようにしている。 ・友達とのかかわりの中で自己主張ができるようになり、トラブルも増えてきたが、その都度相手の思いも繰り返し伝えることで、していいことやいけない事が少しずつだが分かるようになってきている。 ・成長と共に友達とのトラブルもあるが、簡単な言葉で相手に思いを伝える経験を積み重ねられるような機会を多く作るようにした。異年齢児と関わる機会を作り、約束事や交通ルールなど一緒に学び、問いかける声掛けをすることで自分自身で考えられるようにした。 ・おもちゃの取り合いなどの友達同士のトラブルが起きても、子ども自身で考えトラブルに対処する力、泣いている友達を労わる優しさを学んでもらうため、基本的に見守っていた。また、叩いたり泣かせてしまった際は、「痛かったよね」などと気持ちを代弁して、伝えるよう心がけた。 ・いいことと悪いことの区別はついているが、部屋を走り回ったり部屋の中で大きい声を出したり山からおもちゃを落としたり、悪いことにつられてしまう子が多くいる。クラスでルールについて話をする場を設ける必要があると思う。 ・良いこと悪いことの理解が出来るようになり、友達同士の中でも少しずつ自分たちでごめんねやありがとうが言えるようになってきた。 <p>《3歳以上児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で意見の食い違いや衝突が起きた場合には、まずはお互いに気持ちを伝えあい、相手の話を聞くことを伝えている。気持ちが高まり言い方が強くなることもあるが、相手のことを考えて優しさを忘れないように意識している。集団遊びを行う前には決まりを作り、意見を出し合って全体で理解をしたうえで活動を始めるように意識できている。 ・年長児という意識が高くなり、異年齢児問わず、特に未満児の子に優しく接する姿が多くみられる。泣いている子や困ってる友だちがいると、声をかける姿もよく見られるようになってきたと思われる。また、ルールを守らないとどうなるかも、友だち同士で、まずは話し合い、折り合いがつかない時だけ、個別でじっくり話すなどして、経験の場を作っていくことが大切だと思われる。 ・友達同士のトラブルを見ていた周りの子が、状況を判断し、諭すような言葉をかけたり、友達の思いに寄り添うような素振りを見せたりするようになった。 <p>《3歳未満児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玩具の取り合いや場所の取り合い等のトラブルになった時に、友達を叩いたり、蹴ったり、噛むことがある。その都度、してはいけないことを話しているが、中々譲ったり、友達の立場に立って考えることは難しい為、見守りや援助は必要である。 ・0歳児でも、良いこと、悪いことの判断はつけて欲しく、ダメな時はダメと注意するようにした。 ・言葉の理解ができるようになると、少しずつ保育士の言っていることがわかるようになり、気持ちの折り合いが付けれるようになってきた。 ・生活や遊びの中で「順番だよ」「貸してだね」など簡単な言葉を繰り返し伝え、善悪が少しずつ理解していけるように関わっている。一方で、自分の気持ちを優先する姿も多く、繰り返しの丁寧な関りや、年齢に応じた分かりやすい伝え方をさらに工夫していく必要があると感じている。 		

5	社会生活との関わり	評価 ○
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散歩や夏祭りなど地域の人と触れ合う機会があった。散歩先で見つけた植物や生き物を園に持ち帰り、あそんだり育てたりすることで地域への親しみを持つことができた。 ・散歩中に地域の方に挨拶をしたり、公園で遊具を正しく使ったりすることは出来ている。情報を役立てたり、社会とのつながりを意識することは年齢的にまだ難しいと思う。 ・散歩に出かけ、すれ違う人に挨拶する中で地域の人と触れ合う機会があったが、多く関わる機会は持つことが出来なかった。地域へ目を向けた活動はあまり出来なかった。 ・園外へ散歩に出る機会が増やし、地域の人と挨拶を交わし交流を持つことができた。公園での遊び方や交通ルールについて話し、経験を重ねることで少しずつではあるが子どもたちも意識するようになった。 ・社会とのつながりを意識したことはできなかったが、散歩ですれ違う方に挨拶することで、交流を持った。 ・散歩ですれ違う人へ挨拶が上手にできるようになった。公園に行くときなどきれいにしてくれている人がいるから気持ちよく遊んでいることを伝え、大きくなってからも自然を大切に出来るようにしたい。 ・散歩に行く際、ご近所さんと触れ合う機会がある時は、足を止め挨拶をするなど交流をするようにした。保育所の中だけでなく、沢山のひとと触れ合う機会を多く設けた。 ・散歩の途中にすれ違う近所の方と自ら挨拶する子も増え、褒められた子の真似をして意欲的に挨拶する子の姿がみられた。 ・お手伝いを好んで取り組めるようになり、褒められるとうれしくなり、意欲的に取り組む様子が見られるようになった。 ・高齢者や支援が必要な園児との関わりを通して育つ助け合い、優しさの心が育っている。 ・散歩へ出かけ、地域の自然や身近な環境に触れ、周囲の様子に興味や親しみが持てるようにしている。 <p>まずは、身近な大人や環境との関りをより丁寧に積み重ねていきたい。</p> <p>《3歳以上児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長児は園外での保育が多かったため、公共の場でのルールも徐々に分かるようになってきた。交通ルールを意識しながら、小学生の登校に向けて散歩に出かけることができた。 ・公共の施設を大切に利用する気持ちは、散歩先での公園を使用したり、遠足の際に電車を利用したりすることで学べると考える。散歩先の公園の遊具が壊れていて使えなくなっている様子を見たときには「なんで遊べないんだろうね」「誰かが壊したんじゃない」などの子どもからの問いかけもあった。自分が役に立つ喜びは、大人の手伝いをしたり、友だちを助けたりしたときに「ありがとう」「助かったよ」などと声をかけられることでも感じる事ができると考える。 ・散歩に出た際には、ただ歩くだけではなく、近所の方々に元気よく挨拶をすることを意識して、保育士が率先して行う姿勢を見せることで子どもたちも意識付いている。また、横断歩道を渡る際には必ず左右の確認を行う、車道側によらないなど日頃から伝えている。園外保育では、危険箇所を事前に把握しておき、子どもたちに伝え、安全に楽しく過ごし、施設等を利用する際には必ず使い方を確認している。 ・今年度は、外出の機会が多く、地域の方と触れ合う機会も多かった。それに伴い、保育所にある様々な絵本を利用して、情報を知るなどしながら、取り組むよう配慮した。また、交通安全教室を通して、公共の場でのルールを知ることもでき、子ども同士で意識を高め合えたと思う。 		

6	思考力の芽生え	評価 ○
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製作では自然物を使い、子ども自身で色や形を見たり触ったりして選びながらイメージを持って取り組むことができた。 ・水遊びや砂遊び等を通して、砂の感触が変化することや、水が冷たいこと等を考えるきっかけになっていると思う。衣服の着脱ではどのようにすれば上手に着替えられるかを自分で考え、実行することで上達していると思う。 ・何でこうなったの？と質問することが増えてきて、子どもたちの疑問に一つひとつ丁寧に答えることを意識して取り組んだ。 ・子どもが感じたことや経験したことを積極的に話せる雰囲気をつくり、その内容をクラス全体で共有することで友だちの思いを知る機会を設けた。また、自分とは違う考えや気持ちがあることを知り、主張したり、受け入れたりすることで友だちの関わりが深まるようにした。 ・ブロック遊びや積み木遊びをするときに、友だち数名で一つの家を作り、会話を楽しみながら寝る場所やご飯を食べる場所など考えている姿も見られるが、まだひとり遊びを楽しんでいる子もいる。 ・子どもたちが思ったよう、感じたように自由に遊ばせた。少し危険な事でも、本人がやってみようという思いがあるなら、いつでも手助け出来るよう準備し、何事にもチャレンジ出来る環境をつくった。 ・興味を持ったことを一生懸命自分の言葉で、保育士に尋ねる姿が見られた。自分の思いを一生懸命話す様子も見られた。 ・各行事に使う材料には、身近な廃材を使ったり、散歩に出かけて摘んだものや拾ってきた木の実を使って、考えたり、工夫しながら、作っている。また、遊びの中でも、それぞれ登場人物を決めて、試行錯誤しながら、あそぶ姿も時折見られる。 ・おしゃべりが上手になると、興味を持ったことを保育士に尋ねたり、友達に話したりする様子が見られるようになった。保育士や友だちと話す中で、自分の思いを一生懸命話す様子も見られた。 ・戸外遊びなどで、砂や水、草木に触れたり、泥遊びをして遊びながら「どうなるかな」「どうしたらいいかな」と試したり、繰り返し遊んだりする姿を大切に、子供の気付きや発見に共感する声かけを心がけている。 <p>《3歳以上児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人個性があることを知り、違いを尊重しながら、自由製作活動「のこのこハウス」を開始し、想像力を育むことができた。 ・製作では、ある程度の見本、やり方は提示するものの、子どもたちが考えてやってみたい貼り方や、切り方だったりをする。子どもたち同士で「違うよ」と教えあうことがあったり、友だちがやっているのを真似してみたりと自分たちで判断しながら製作を進める姿も見られている。そのような中で、自ら考え直したり、自分と異なる考えがあることに気付いたりすることに繋がっていると考える。 ・子どもが段ボールで何かを作りたいという提案をしたことから段ボールで自由製作を行った。眼鏡や被り物など創造して作り、他に何が必要かを話し合い、どのように繋げるか、重ねたら立つかなど考えるきっかけになるように心がけている。 ・以上児、特に年長児では様々な製作活動を通して、豊かな発想力を身に着けた。 <p>《3歳未満児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢的に難しかったが、友達の分のエプロンを持ってきてあげたりと、先を予想して動く思考力は育っていたと思う。 		

7	自然との関わり・生命尊重	評価 ◎
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散歩にでかけ、季節の変化や事象に気づき友達や保育士と共有したり、あそびに持ち込むことができた。 ・虫や植物との関わりの中で、興味関心は出てきている様子。しかし、命の大切さを理解できていない子も多い為、見守りと声掛けを行う必要がある。 ・自然に触れる体験は、散歩を通して道中の植物や草花、畑に植わっている野菜などを見ることでもできる。以前通った時には咲いてなかった花を見つけたり、畑の野菜が大きくなっていることに気付いたり、以前はあった植物が枯れていたりと様々なことを通して自然の不思議さや尊さに気付くことができると思う。 ・戸外遊びや散歩を通して、季節に応じての自然の変化を一緒に見たり、感じたりすることができた。子どもたち自身も興味、関心を持ち、気持ちを共有できた。散歩では、鯉を近くの川で見ることができたので毎回散歩に行った際の楽しみとなった。 ・水遊びでは、水や砂・泥などにふれ、砂の重さや水の変化などを実体験を通して様々な気づきがあった。虫や植物を保育室で観察できるようにし、成長や変化に気付きながら命の大切さを身近に感じることができた。 ・虫を触ったり、草花を集めたりなど自然や生き物とかかわることができた。また散歩や戸外遊びを通して、式の変化を一緒に感じることができた。 ・年長が育てている野菜に興味をもったり、虫を見つけたら捕まえて葉っぱなどを入れて観察する子もいる。一方、手で虫を強く握り死んでしまったり、咲いている花をちぎったりする姿もある。小さくても命があることを伝え、生き物や植物の大切さを教えていきたい。 ・散歩中、季節の植物や虫に触れたり、自然に触れることが出来ている。夏にはカブトムシの飼育を行い、命の大切さを学ぶことも出来た。 ・保育所では、植物を育てたり、生き物に触れる機会も多く、疑問に思ったことなどは、保育士や友だちに聞いたり、図鑑や本で調べたりと、意欲的に取り組んでいる。また、公共の施設を訪れて知る機会も多かったと思う。 ・虫などに関心を抱き、興味が出たタイミングで絵本や保育士の話などから、さらに関心を深められた。幼い子どもに命の大切さを伝えるため、始めの段階として、生き物に関心を持つこと、よく観察すること、そっと扱うことなどを丁寧にいっしょに行った。 ・戸外遊びでは、水遊びや泥遊びなどを通して全身で触感を楽しんでいる。また、園庭にいる虫や草花などにも触れ、観察しながら名前を知ったりして身近に感じられるようにする。散歩で園外に出た時には、季節の変化を感じながら季節ごとの草花や虫に触れ、名前を知ったりして関心が高まるように心がけている。 <p>《3歳以上児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カブトムシやアカハライモリ、かのにの飼育をしたり、夏野菜を育てたりして、自然に関わることができた。餌やり、水替え、掃除などを通して、子どもたち同士で役割分担をして活動することができた。 ・園外でつくしを集めてはかま取り競争をしてクッキングを行って実際に食べてみた。季節ごとにさくらのもみじなどを公園に行き見て集めたり、木の枝を集めて製作に使うなど自然の中で使えるものを見つけて実際に触れることを意識している。虫に触れる時には命があることを伝え、優しさを忘れず関わられるように声かけを意識している。 <p>《3歳未満児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散歩では季節の草花や昆虫など、一緒に見たり触れたりして楽しんだ。力加減が分からずに触ろうと思っても潰してしまった時は、「ごめんなさい」と手を合わせるようにした。 		

8	数量・図形、文字等への関心・感覚	評価 ○
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手遊びや数字の歌等でなんとなく数字というものを認識してきた。時計や文字や標識等への興味関心はまだ少ない。 ・おやつを数えたり、グループ活動をしたして数字に親しみを持てるようにした。散歩の時には、信号や標識に目を向けることができた。 ・散歩の際に信号機が赤の時には止まる、青になったら渡る。横断歩道を渡ること、歩道の線の中を歩くことを伝え、子どもたちにも意識してもらう。 ・図形や文字にふれる機会は少ないが、園外では木の枝の数量を数えたり、ものの大きさの違いに気付けるような声かけをして遊びに取り入れた。 ・散歩のときに車の標識などを気にすることなく、子どもたちと考える機会がなかった。文字に関しては絵本を読み聞かせをすることはあっても自分たちで読む姿が少なく、本を読む時間があっても図鑑やなぜなぜの本を読んだりして物語の本を読む子が少なく感じた。 ・絵本をたくさん見せる機会を設けた。子どもたちも絵本は大好きでよく見ていてくれた。 <p>《3歳以上児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おやつクッキーを数えるなど生活の中で数に触れることができた。 ・散歩などの園外保育では止まれの標識を見て覚え、遊びの中で三文字ゲームを取り入れ、数字や文字、言葉を意識して楽しむ経験をすることで、違う場面でも「これは何?」と言い、興味を示すきっかけになっている。 ・毎朝の、お便り帳のシール貼りや自分の名前を見つけたり、友だちの名前も見つけたりする姿が多く、月の絵本も自分で、興味深く読んだり、文字への関心が非常に高くなっている。散歩中も標識や看板に触れる機会も多かった。 <p>《3歳未満児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだ数の概念は、漠然としているものの、一緒に10まで数えて待ったりする中で少しずつ言える子も増えてきた。大きい、小さいや、長い、短いなどは遊びを通して認識できるようになってきている。遊びや生活の中で保育士が子どもの興味に合わせた言葉がけができていると思う。 ・年齢的に数や文字などの興味や関心はなかった。 ・もう一回! や、一つ、などの簡単な数に関心を持ち、友だちの影響もあって知らない子も真似をし、覚えて使うようになっていた。 ・生活の中で、子どもたちに確認しながら興味を広げていった。 ・△、○、□等の簡単な図形が載っている絵本を読み聞かせしながら、「さんかく」「まる」「しかく」など形の名称を知らせ、遊びや生活の中で「三角の形だね」など話しながら、形に気付いたり、身近に感じたりできるようにしている。 		

9	言葉による伝え合い	評価 ○
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の読み聞かせの中で新しい言葉や表現に関心をもち使ってみようとする事ができた。保育士や友達の話の聞いたり、自分の気持ちを言葉で伝えたりすることの楽しさや大切さを伝えることができた。 ・言葉が少しずつ出てくるようになり、友達との会話を楽しむ子も増えてきた。長い絵本や物語になると離席する子もいる為、興味が持てるような声掛けや環境作りが必要である。 ・グループ活動での会話や伝言を保育士に伝えるなどして言葉でのやり取りを行う。絵本を繰り返し読んだり、休日での出来事や楽しかったことを尋ねたりして話す楽しさ、聞いてもらえる喜びを感じられるように関わる。 ・絵本の読み聞かせを通して、豊かな言葉や表現を身に付けることに繋がるので、絵本の読み聞かせは毎日行うようにしている。子どもたちも絵本が好きでもっと読んで欲しいとの声が上がること多々。出来るだけ子どもたちの気持ちに伝えられるように対応している。 ・絵本の読み聞かせは毎日行っており、子どもたちの興味関心があるものを選び、繰り返しある言葉を一緒に覚えて言うことや、擬音語を楽しんでいる。子ども達の話そうとする気持ちを大切に、一人ひとりに耳を傾け、気持ちに寄り添えるように心掛けている。 ・毎日の絵本の読み聞かせで子どもたちの興味・関心があるものを選び、気に入ったフレーズや子供たちの言える言葉を一緒に言ったりと、言葉の伝えあいも楽しめた。 ・紙芝居や大型絵本などの物語を日常的に読むことで感性が養われ、人とのかわり方や言葉について考えることができています。友だちとトラブルになった時には保育士がすぐに介入するのではなく、子ども同士で話し合い、相手に気持ちを伝え、相手の話を聞いて理解することを意識できています。 <p>《3歳以上児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順番でその日のリーダーを決め、友だちの前で食前の挨拶をしたり、配膳の手伝いをする事で言葉で表現する機会を設けた。ほめられることで自信につながっていた。絵本や紙芝居に興味を持ち、意欲的に聞くことが出来ている。 ・長い絵本も物語に集中して真剣に聞いている子が増えてきたが、絵本を見るのが難しい子は違うところを向いていたり動き回ったりしてしまう。個別対応を考える必要がある。絵本を読んだ後に意見を聞く機会を増やしてもいいと思った。 ・上手く言葉で伝えられる子もいればなかなか言葉がでない子も多い中でどう伝えていけばいいのか悩むことも多かった。 ・誕生日の友だちには、その子のいいところをクラスで、出し合ったり、質問したりすることを取り入れていきながら、聞く力や伝える力を少しずつ身に付けていけるよう心がけている。また、描画の時間もたくさん作り、一対一で話せる場面を作ったり、自信を持って話せる機会を増やしてきた。 ・トラブル時など、こどもたち自身で言葉で思いを伝えあったり、保育士が気持ちの代弁をしていたりする中で、言葉の獲得や適正な使い方を学んでいった。 <p>《3歳未満児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を少し話せる子、話せない子、話せなくても相手が言っている事が分かる子、分からない子がおり、1人1人成長が違うので、言葉に表情をつけながら少しでも分かるよう話す事を心がけた。 ・絵本や手遊び、歌遊び、ふれあい遊びなどを通して、言葉で自分の思いを伝えられるうれしさを感じられるようになった。 ・毎日、絵本や紙芝居の読み聞かせをして、子どもたちが様々な言葉や物語に触れる機会を得られるようにしたり、集中してお話が聞ける習慣が身につくよう心がけている。 		

10	豊かな感性と表現	評価 ○
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作活動、描画、リズムなどを通して自己表現できる環境作りを意識し、のびのびと表現できるような声かけをする。 ・泥んこ遊びや、水遊びなど保育士も一緒になって遊ぶことを楽しみ、子ども達一人ひとりが表現することを喜び、それに寄り添える心持ちを大切にできていると思う。 ・自然物の色や形の違いに気づき、見立てる面白さを友だちと共有しながら製作に取り入れ、作品作りを楽しめるようにした。夢中で遊んでいるときは見守り、楽しさをみんなで共有することで会話が広がるようにしている。 ・泥遊び、水遊び等を通して、五感を使って楽しんだことで、表現する喜びを味わった。 ・リズムの音を聞いて動物や虫になりきって表現することが上手になってきた。また絵画でも人の絵を描いたり、活動する豆まきの様子や遠足に行った絵などを自分なりに考えながら描く姿が見られるようになった。 ・リズムや製作など、1人1人の動きや意思を尊重するようにした。 ・描画ではその子の気持ちを大事にし、美術研修に参加することで子どもたちの成長過程を学ぶことが出来た。 ・子どもたちが遊びや生活の中で気付いた事があった時や、日常の会話の中でも一緒に驚いたり、喜んだり、感情の共感をし、感情を表現することの楽しさや喜びを子どもたちが感じられるようにしている。 <p>《3歳以上児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観劇会等の行事に参加し、自由に表現することの楽しさを味わうことができた。歌を友達と歌うことで自分なりに表現することや友達と共有することの楽しさを感じる事ができた。 ・描画では、感じたことや考えたことを自分で表現する。もも組では毎日のどこかの時間で描画をするようにしており、毎日描くことで、大人も子どもの絵の変化に気付くことが出来ている。子どもたちも描画を楽しみにしており、のびのびと表現し、意欲を持って取り組んでいる。 <p>製作では個性が溢れ楽しく取り組む姿が印象的だった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本や紙芝居の物語を聞き、どのような内容だったか、結末はどうだったか、どんなふう感じたかなどを話すことを心掛け、ただ見るのではなく見たこと聞いたことをどのように感じたかを自分の言葉で伝えられるような機会を作っている。自分の思いを話し、相手に聞いてもらうことの喜びをほぐくむことを意識している。 ・保育所で、飼っている生き物の変化や誕生に立ち会う機会も多く、その時には、クラス全体で、一緒に喜んだり、感動したり、共有する環境を作ることを心がけている。また、自由に製作できるように、材料を沢山準備し、成功体験を増やせる場を作った。 <p>《3歳未満児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での楽しかった出来事や飛行機やヘリコプターを見つけた時に、保育者に教えてくれることが増えてきた。喜びを伝えることは出来ているが、それを何かに表現することはまだ難しい。 ・言葉や表情などで自分の気持ちを表現し、友だちや保育士とのやり取りを楽しんだり、時にはケンカをしたりする姿が見られた。泣いて訴えるだけでなく、言葉の獲得と共に、表現の仕方に変化がみられた。 		

2. 保育の実施及び保育所運営に関する項目

1. 子どもの権利

近年、多文化の共生や、家族形態の多様化、子どもの特性などの状況を踏まえ、より一層、一人ひとりの子どもに寄り添う保育が必要になっています。また、子どもの成長を的確にとらえ、子どもの心情に十分配慮しながら、安心して生活できる環境を提供することが大切です。

一人ひとりの生活習慣や文化などの違いを知り、それを認めあう心を育てよう努めている。	◎
おむつ交換やトイレ、着替え（プール含む）の際は、全裸で放置されることのないよう配慮し、他者の視線を遮る工夫をしている。	○

2. 職員に求められる資質

保育の質の維持・向上を実現する基本は、職員一人ひとりの資質です。職員が職務に責任感を持ち、子どもや保護者の見本となる人権感覚や倫理観を持ち、保育技術や知識を高める意欲がなくてはなりません。

保育指針を十分に理解し、日々の保育実践に活かしており、向上心を持って取り組んでいる。	○
研修、書籍、他園との交流等から、自身の保育の課題や不足している知識・技術の習得の機会を 持とうとしている。	○

3. 保育環境

保育施設は、子どもが快適に心地よく生活できる環境を整えることが大切です。思いきり身体を動かす活動ができる環境、遊びこむことができる環境、くつろげる環境、身近な動植物や自然事象に接する機会など、子どもが興味・関心を持ち、関わりたくなるような保育環境が重要です。また、常に子どもの健康と安全に気を配り、子どもが安心して安全に過ごせる環境を保育施設全体で整える必要があります。

施設内の設備・遊具等の点検が行われ、点検に基づき危険個所の整備が迅速に行われており安全な保育環境が保たれている。	○
施設内の清掃が行き届いており、保育室・トイレ等の清潔が保たれ、イスやテーブルなどの子どもたちが使用する備品類の消毒が行われている。	◎

4. 保育内容

保育施設における保育の特性は「養護と教育の一体的な実施」であり、子どもと生活を共にし、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を身に付けていけるように保育を展開します。

職員全体が、めざす子どもの育ちの道筋、子ども像を共有している。	○
---------------------------------	---

5. 生活と遊びの中の教育

子どもたちは、遊びを通して言葉や数、表現する力などを身に付けていきます。

乳幼児期においては、言葉かけやスキンシップ、成長発達に応じた様々な玩具や絵本との出会いや子ども同士の関わり合いなど様々な体験を通して、意欲・関心を培い、未来へ向かって生きる力を育むことが重要です。

周辺施設や地域と連携する等、子どもが地域社会の中で活動範囲を広げるための取り組みを行っている。	○
---	---